

ITU-R RAG会合の結果

1. 会合の概要

会合期間・場所: 2019年4月15日(月)～17日(水)、ITU本部(ジュネーブ)

目的: RAG(無線通信諮問委員会)では、WRC、SGなど無線通信部門の運営方針について検討し、無線通信局長に助言。

出席者: 各国主管庁、無線通信局(BR)等から、約100名が出席
日本からは、総務省、NHK(西田SG6議長)他、計3名が出席



2. 主な結果

(1) 無線通信総会(RA-19)に向けた検討

- ・本年2月のCPM19-2にイランが提案したITU-R決議2(CPMの設置・作業方法等)の見直しに関して、イランより改めてBRに検討要請があり、議論の結果、RAGにコレスポンス・グループを設置して検討を進めることとなった。
- ・ロシアから、昨年10月のPP-18で決議140(WSIS※の成果の実施におけるITUの役割等)が改正されたことを踏まえたITU-R決議61の修正、語彙に関する決議の修正について提案があった。 ※World Summit on the Information Society (世界情報社会サミット)
- ・日本から、勧告等のエディトリアルな修正やラポータグループ等のMLの設置等に関する提案を行った。

(2) 衛星調整ファイリングの電子申請プロジェクト(WRC-15決議908の実施)

- ・本プロジェクトに関して、日本より、ITU-Rへの資金拠出及び総務省職員の派遣による支援を行っており、BR局長、RAG議長等が日本の貢献に対する謝意を表明。
- ・日本からは、プロジェクトの促進のため更なる改善点を指摘し、今後BRで検討することになった。イランから、オンライン化は望ましいが、一部の国では対応が困難な場合もあり、既存システムの継続も必要との指摘があった。

(3) その他

- ・毎年作成している無線通信部門の業務計画について、PP-18で承認されたITU戦略計画(2020～2023年)を踏まえた計画案(2020～2023年)の審議が行われた(理事会において承認予定)。
- ・ナノ・ピコ衛星の増加に伴い、ITUの規則等を知らない企業等が増加していることから、中国からトレーニングの充実やハンドブック作成の提案があった。これに対し、関連セミナー動画の公開が提案され、BRで検討することとなった。
- ・次回RAG会合は、2020年4月6日～9日のうち3日間を予定。